

社会学部報

◇学部講演会および研究会

- 1996年5月8日(水)(研究会例会)
 - 講師 Richard Roman 氏
 - カナダ研究客員教授
 - 「Racism and the Development of Trans-border Working class Relations: Mexico / US and Canada / US in Comparative Perspective」
- 1996年6月12日(水)(研究会例会)
 - 講師 浅野 仁氏
 - 社会学部教授
 - 「何れの国の高齢者がより幸せか」
- 1996年7月3日(水)(研究会例会)
 - 講師 居樹 伸雄
 - 社会学部教授
 - 「最近日本の賃金事情を考える」
 - 一日経連提言を点検しつつー

◇社会学部教職員人権問題研修会

- 1996年6月12日(水)
 - 講師 申 英子氏
 - 大阪ハンイル教会牧師
 - 「愛する権利」

◇海外出張

- 川久保 美智子 教授
 - 3月13日から3月16日まで
 - 資料収集のため、台湾へ
- アラン・ブレイディ 助教授
 - 3月18日から4月5日まで
 - 英語教育関係資料収集及び調査のため、イギリスへ
- 鳥越 皓之 教授
 - 3月27日から4月1日まで
 - 「社会実習」を行うため、韓国へ
- 浅野 仁 教授
 - 4月1日から4月7日まで
 - ドイツにおける公的介護保険制度の実情把握のため、ドイツへ
- 武田 建 教授

- 4月23日から5月6日まで
- ネブラスカ・ウエスレアン大学において名誉学位授与及びバンクーバー、ニューヨーク、トロント支部総会に出席のため、アメリカ、カナダへ
- 宮田 満雄 教授
 - 4月25日から4月28日まで
 - 第11回 ACUCA 総会(創立20周年記念)に出席のため、韓国へ
- 山路 勝彦 教授
 - 4月25日から5月6日まで
 - 台湾の先住民に関する人類学的研究のため、台湾へ
- 宮田 満雄 教授
 - 5月9日から5月18日まで
 - マウントアリソン大学において名誉学位授与及び米国合同メソジスト教会世界宣教部訪問のため、カナダ、アメリカへ
- 高坂 健次 教授
 - 5月27日から6月1日まで
 - アジア太平洋地域社会学会議設立大会出席のため、フィリピン、マニラへ
- 鳥越 皓之 教授
 - 7月18日から8月1日まで
 - 第9回国際農村社会学会出席のため、ルーマニアへ
- 藤戸 淑子 教授
 - 7月24日から9月1日まで
 - 資料収集及び University of London, Birkbeck College 夏期講座聴講のため、イギリスへ
- アラン・ブレイディ 助教授
 - 8月1日から8月11日まで
 - Applied Linguistics 世界会議に出席のため、フィンランドへ
- 藤原 武弘 教授
 - 8月1日から8月31日まで
 - 攻撃行動の日西共同研究に関する打ち合せ及び国際攻撃研究学会にて研究発表のため、スペイン及びフランスへ
- 船本 弘毅 教授
 - 8月4日から8月16日まで
 - 世界メソジスト関係学校高等教育大会、世界

- メソジスト教会総会、同窓会ブラジル支部総会に出席のため、ブラジルへ
- 山路 勝彦 教授
8月6日から8月14日まで
台湾での社会人類学的調査のため、台湾へ
 - 立木 茂雄 教授
8月20日から9月11日まで
カナダにおけるボランティア・マネージメントについての取材調査、ビデオ収録のため、カナダへ
 - 宮原 浩二郎 教授
8月21日から9月4日まで
産業研究所共同研究でシンガポールに関する研究の現地調査のため、シンガポールへ
 - 荻野 昌弘 助教授
8月21日から9月19日まで
文化財、博物館についての調査（文部省科学研究助成）のため、シンガポール、フランスへ
 - 芝野 松次郎 教授
8月25日から9月19日まで
スタンフォード大学夏期英語講座の引率のため、アメリカへ
 - 山路 勝彦 教授
8月28日から9月30日まで
トンガ王国での社会人類学的調査のため、トンガ王国へ
 - ルース・グルーベル 助教授
8月29日から9月7日まで
アメリカ政治学学会出席及び調査のため、アメリカへ
 - 森川 甫 教授
9月6日から9月23日まで
オーギュスタン・ベルク氏と講演会、研究会等の打ち合わせ及びパスカル学会に出席のため、フランスへ
 - 真鍋 一史 教授
9月20日から10月3日まで
中国人民大学への交換研究員として中国へ
 - 弘文堂 1996. 1
 - 紺田 千登史 教授（分担執筆）
「中江兆民における『人間』の発見」
領家 穰 編著
『日本近代化と部落問題』
明石書店 1996. 2
 - 津金澤 聰廣 教授（分担執筆）
「阪神大震災における流言飛語とメディア」
『放送学研究』第46号
日本放送協会放送文化研究所 1996. 3
 - 山本 剛郎 教授（分担執筆）
「コープこうべ成立期の地域社会」
碓井 崧 編
『コープこうべ
—生活ネットワークの再発見—』
ミネルヴァ書房 1996. 3
 - 春名 純人 教授（著）
『ハイデルベルグ信仰問答』
神戸改革派神学校 1996. 3
 - 真鍋 一史 教授（共編）
『日本の社会・意識調査（2）』
社会・意識調査データベース作成委員会
1995. 3
 - 高坂 健次 教授（分担執筆）
「Changing Status Perceptions in Contemporary Japan: A Debate on Modernity and Postmodernity」
in Johann P. Arnason and Yoshio Sugimoto (eds.)
『JAPANESE ENCOUNTERS WITH POSTMODERNITY』
KENGAN PAUL INTERNATIONAL
1995
 - 荻野 昌弘 助教授（分担執筆）
「Un ordre initiatique an Japan」
in JEUDY, H-P.,
『TOUT N'ÉGOCIER』
Éditions Autrement 1996
 - 荻野 昌弘 助教授（共訳）
「分業」「E. デュルケーム」「C. レヴィーストローズ」他16項目 丸山哲央編
『新しい世紀の社会学中辞典』
ミネルヴァ書房 1996. 3
- ◇新刊書紹介
- 対馬 路人 教授（共編著）
『新宗教 教団・人物辞典』

- 難波 功十 専任講師 (分担執筆)
「広告化する都市空間の現在」吉見俊哉編
『都市の空間 都市の身体』
勁草書房 1996, 5
- 鳥越 皓之 教授 (編著)
『環境とライフスタイル』
有斐閣 アルマ 1996, 6
- 津金澤 聰廣 教授 (編著)
『近代日本のメディア・イベント』
同文館 1996, 7
- 石川 明 教授 (分担執筆)
「社団法人日本放送協会の『事業部』活動」
津金澤 聰廣編著『同上書』
同文館 1996, 7
- 高坂 健次 教授 (翻訳)
トーマス・J・ファラロ著
『一般理論社会学の意味』
ハーベスト社 1996, 8

学会消息

◇国際分類学会

- 第5回国際分類学会議が1996年3月27日から30日にかけて神戸国際会議場において開催され、世界18か国から230余名が参加した。本学からは真鍋一史教授が組織委員会 (林知己夫委員長) 委員として「Facet Theory for Classification」の招待セッションのオーガナイザーおよび司会を務めるとともに、同セッションにおいて「Techniques for Classification of Questionnaire Items in Cross-National Comparisons」と題する研究発表を行った。

◇人間-環境学会

- 人間-環境学会研究発表会が、1996年5月13日(月)に国立医療・病院管理研究所で開催された。本学からは藤原武弘教授が出席し、「阪神大震災時における人間行動についての社会心理学的研究(1)」、「阪神大震災時における人間行動についての社会心理学的研究(2)」、「阪神大震災時における人間行動に

についての社会心理学的研究(3)」と題する研究発表を行った。

◇日本出版学会

- 1996年5月18日(土)、19日(日)に国学院大学において春季研究発表会が開催された。シンポジウムとして「戦後出版の検証-50年史刊行に寄せて」があり、活発な報告と討論がおこなわれた。本学部からは芝田正夫教授が出席し、総会で理事に選出された。

◇関西社会学会

- 第47回関西社会学会大会が1996年5月25日(土)、26日(日)の両日、吉備国際大学(会場：倉敷芸術科学大学)において開催された。本学からの研究発表者と発表テーマは以下のとおりである。

<社会学研究法のセッション>

真鍋一史教授「Well-Beingの構造の国際比較-R. Inglehart『世界価値観調査データ』による検証」

<宗教のセッション>

種田博之(大学院後期課程)「『石切神社』参道における『運命鑑定業者』の実態-1985年と現在(1996年)との比較より-」

星野智子(大学院後期課程)「南陽院の水子供養についての社会学的一考察」

河村裕之(大学院前期課程)

神野賢治(大学院前期課程)

田並尚恵(大学院研究員)

◇日本家族研究・家族療法学会第13回大会

- 1996年5月30日から6月1日(於大阪国際交流センター)

立木茂雄教授は学会教育ワークショップ「家族システムの評価と計量」を担当した。博士後期課程2年の栗本かおりは「家族システムI」部会で「FACESKGⅢの父・母・子ども版の構成概念妥当性とノームの算出-一般サンプル調査から-」と題して報告を行った。博士前期課程2年の野口啓示は前期課程1年の坪倉裕子、大阪府立大学の谷口泰史と共同で「家族システムI」にて「震災ストレ

スと対処機能—個人および家族システムの対処資源性に焦点を当てて」と題して報告を行った。新阿武山クリニックの西川京子（博士前期課程卒業生）は、本学社会学部立木茂雄教授、博士課程前期課程2年の橋本直子と横山登志子、および龍谷大学大学院の安川友加里は「断酒継続に影響を与える家族要因の計量的研究—1年後のフォローアップ」と題して報告を行った。なお同部会の司会は立木茂雄教授が務めた。

◇消費者行動研究コンファレンス

- 第12回消費者行動研究コンファレンスが、1996年6月27日（木）に琉球大学で開催された。本学からは藤原武弘教授が出席し、「自己」「拡張自己」「身体統制に対する態度」の相互関係に関する社会心理学的研究」と題する研究発表を行った。

◇INTERNATIONAL SOCIETY FOR RESEARCH ON AGGRESSION

- INTERNATIONAL SOCIETY FOR RESEARCH ON AGGRESSION XII WORLD MEETING が、1996年8月25日—30日にフランスのストラスブルグ大学で開催された。本学からは藤原武弘教授が出席し、「Attitude of American, Japanese, and Spanish students toward interpersonal aggression」ならびに「Gender and cultural differences in anger and aggression proneness : a comparison between The Netherlands, Spain and Japan」と題する研究発表を行った。

◇異文化コミュニケーション研究所夏期セミナー

- 異文化コミュニケーション研究所（神田外語大学）の第6回夏期セミナーが1996年8月28日から31日にかけて福島県の British Hills において開催された。本学からは真鍋一史教授が「国際化という社会現象—その観察・測定・法則—」と題するワークショップの講師として招かれた。

◇国際パスカル学会

- 《パスカルとドマの時代の法律》
於 ブレーズ・パスカル大学（クレルモン・フェラン第二大学）
1996年9月19日から21日
森川甫教授はこの学会に出席し、討議に参加した。

◇日本社会心理学会

- 第37回日本社会心理学会が、1996年9月28日（土）、29日（日）に北海道大学で開催された。本学からは藤原武弘教授が出席し、「異文化適応におけるソーシャル・サポート・ネットワーク形成とソーシャル・スキル実施の効果」と題する研究発表を行った。

◇日本社会福祉学会第44回大会

- 1996年10月12日・13日（於同朋大学）
博士課程前期課程2年の野口啓示と同前期課程1年坪倉裕子は大阪府立大学専任講師の谷口泰史および本学社会学部立木茂雄教授と共同で「震災ストレスとエコロジカルモデル1」（野口発表）、「震災ストレスとエコロジカルモデル2」（坪倉発表）、「震災ストレスとエコロジカルモデル3」（谷口発表）の報告を行った。本学博士課程前期課程卒業の西川京子は社会学部荒川義子教授および立木茂雄教授と共同で「断酒継続に影響を与える家族要因の研究—家族機能、共依存などの要因の1年後の変化—」と題して報告を行った。博士課程前期課程2年の横山登志子は、同2年の橋本直子、博士課程後期課程2年の栗本かおりおよび本学社会学部の立木茂雄教授と共同で「オルソン円環モデルに基づく家族機能評価尺度作成の試み—FACESKGI V実年版—」の報告を行った。また本学博士課程後期課程1年の横田恵子は「地域保健法施行による母子保健事業の市町村移管のプロセスについて（1）」と題して報告を行った。

執筆者紹介 (掲載順)

フィリップ・セリエ	パリ・ソルボンヌ大学教授	藤原武弘	関西学院大学社会学部教授
林 伸一郎	関西学院大学社会学部兼任講師 大谷大学 研修員	西山啓	比治山大学現代文化学部教授
小関藤一郎	関西学院大学名誉教授	今塩屋隼男	兵庫教育大学学校教育学部教授
倉田和四生	関西学院大学社会学部教授	石井眞治	広島大学学校教育学部教授
紺田千登史	関西学院大学社会学部教授	福田廣之	山口大学教育学部教授
真鍋一史	関西学院大学社会学部教授	松陰宏	蓮光寺 副住職
栗田真樹	関西学院大学社会学部兼任講師 吉備国際大学社会学部講師	荻野昌弘	関西学院大学社会学部助教授
劉志明	関西学院大学社会学部兼任講師 神戸大学大学院国際協力研究助教授	孫 良	関西学院大学大学院 社会学研究科博士課程後期課程
加藤敬子	関西学院大学社会学部兼任講師	浅野 仁	関西学院大学社会学部教授
李 鍾煥	関西学院大学大学院 社会学研究科博士課程前期課程	中野秀一郎	関西学院大学名誉教授
山路勝彦	関西学院大学社会学部教授	西山美瑛子	関西学院大学社会学部教授
		牧 正英	関西学院大学社会学部教授

社会学部研究会会員

会 長	牧 正 英					
運営委員	森川 甫	津金 沢 聡 廣	西山 美瑛子			
	荒川 義子	宮原 浩二郎	三浦 耕吉郎			
会計監査	中山 慶一郎	宮田 満雄				
書記	土屋 明生					
名誉会員	本出 祐之	半田 一吉	J. A. ジョイス			
	小関 藤一郎	萬成 重夫	中野 秀一郎			
	西尾 朗	岡村 重夫	領家 穂光			
	嶋田 津矢子	杉原 方	清水 盛光			
	田中 國夫					
	(A. B. C 順)					
普通会員	倉田 和四生	杉山 貞夫	武田 建			
	牧 正英	佐々木 薫	森川 甫			
	張 光夫	中山 慶一郎	宮田 満雄			
	船本 弘毅	津金 澤 聡 廣	春名 純人			
	紺田 千登史	村川 満彦	西山 美瑛子			
	真鍋 一史	山路 勝彦	山本 剛郎			
	高田 眞治	鳥越 皓之	荒川 義子			
	安藤 文四郎	浅野 仁	高坂 健次			
	石川 明	對馬 路 人	芝田 正夫			
	芝野 松次郎	藤原 武弘	宮原 浩二郎			
	藤戸 淑子	立木 茂雄	田中 耕一			
	居樹 伸雄	A. ブレイディ	川久保 美智子			
	荻野 昌弘	三浦 耕吉郎	R. M. グルーベル			
	岡田 弥生	谷 直子	難波 功士			

関西学院大学社会学部研究会会則

第1章 総 則

第1条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

第2条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

第3条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町1—155 関西学院大学社会学部内におく。

第2章 事 業

第4条

本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会などの開催
2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4. 本学部の教育・研究に対する協力
5. 国内外関係諸学会との協力
6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

第5条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 名誉会員 本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
2. 普通会员 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

第4章 運営組織

第6条

第2章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会员の中から互選し、運営委員会を構成する。
3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4. 運営委員会は第4条に記された事業の企画・運営にあたる。

なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5. 会計監査(2名) : 会計監査は普通会員の中から互選する。

6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

第7条

本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

第5章 総 会

第8条

総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めたととき、あるいは普通会員の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

第9条

総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認められた事項

第6章 会 計

第10条

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第11条

本会の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費
普通会員年額 31,200円
賛助会員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

第12条

本会員および本学社会学部大学院学生・大学院研究員並びに学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間2,600円とする。

付 則

第1条

本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

第2条

本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

第3条

本会則は1992年4月1日より施行する。

「社会学部紀要」編集内規

1992年4月1日施行

1996年10月23日改正

1. 「社会学部紀要」(以下、本紀要という)は原則として、当該年度中に2回発行する。6月末を締切日とする号は10月上旬の配布を、11月末日を締切日とする号は3月25日の配布を目標とする。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会がおこなう。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。
 - ①原著
 - ②研究ノート
 - ③学部および社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
 - ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
 - ⑤社会学部最優秀卒業論文賞(安田賞)受賞論文
 - ⑥その他編集委員会が必要と認めた記事
4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、ならびに普通会员とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会员の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会员と共同研究をおこなった者とする。

上記以外の投稿者に関しては普通会员による推薦と編集委員会の審査を経て2名を限度として掲載することができる。

大学院学生ならびに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会员による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。
5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。
 - ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
 - ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
 - ③図表、写真等は題字、説明つきですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する個所を本文欄外に指示すること。

図表・写真等の費用は50,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。
 - ④原稿には和文および英文の表題、さらに欧文の要約をつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。
 - ⑤原稿に3語のキーワードをつける。
6. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
7. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
8. 編集委員会が依頼した外国語原稿を翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で審議の上決定する。
9. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。

また、執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、著作権処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。
10. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷100部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
11. 発行された紀要は名誉会員、普通会员、大学院学生、大学院研究員および学生に配布する。その年度の非常勤講師にも配布する。また、本紀要は上記以外の者に頒布することができる。なお、頒布料は原則として学生の購読料と同額とする。
12. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

＜編集後記＞

「社会学部紀要」第75号をお届け致します。春学期には例会を3回開催致しました。社会学部開設35周年記念行事を、1年遅れではありますが、去る10月14日から21日の間、フランス国立社会科学高等研究院、現代日本研究所のオギュスタン・ベルク教授を特別講師として招聘し、多彩な学術交流のプログラムを持つことができましたが、秋学期の行事でありますので、詳細は次号で報告致します。昨年10月、特別例会として開催しましたパリ・ソルボンヌ大学のフィリップ・セリエ教授の講演を収録致しました。訳稿作成の労をとって下さった社会学部兼任講師の林伸一郎講師に厚く御礼申し上げます。また、論文、研究ノート、資料を寄稿して下さった方々に厚く感謝致します。社会学部最優秀卒業論文賞授賞論文も掲載しました。前号で予告しました「書評欄」は次号から始める予定です。「社会学部報」「学会消息」は、前号に引き続き、整備、充実するよう努めました。

前回同様、「紀要」の編集発行のため、速水幸一主任、湯原陽里香主事に大変お世話になりました。湯原主事は様々な配慮をもって編集実務を果たして下さいました。大変有り難うございました。(森川)

1996年10月20日 印刷

1996年10月30日 発行

編集発行人 牧 正 英

発 行 所 関西学院大学社会学部研究会

〒662 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)(54)6202

印 刷 所 尼崎印刷株式会社

〒661 尼崎市下坂部3丁目9番20号

電 話 (06)494-1122(代)

KWANSEI GAKUIN
SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 75

October 1996

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
